

## 5. 指標毎の目標と達成度

### 各指標の実績値と目標値

沖縄ブロックの 社会資本整備重点計画	アウトカム指標名		平成14年度 実績値	平成15年度		平成16年度 目標値	平成19年度 目標値
				目標値	実績値		
自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり ～連携を強化し、交流を促進する道づくり～	日常生活の中心となる都市まで、30分以内で安全かつ安定的に走行できる人の割合		62.5%	62.8%	62.8%	63.1%	65.7%
	規格の高い道路を使う割合		6%	6%	7%	7%	7%
自立型経済の構築と持続的発展を支える基盤づくり ～都市部の交通渋滞を緩和する道づくり～	道路渋滞による損失時間	県道以上	62 百万人時間/年	61 百万人時間/年	-	-	59 百万人時間/年
		渋滞モニタリング区間 <sup>1</sup>	23.4 百万人時間/年	23.2 百万人時間/年	22.0 百万人時間/年	22.0 百万人時間/年	22.2 百万人時間/年
	ETC利用率		1.0%	5.0%	1.6%	16.0%	大幅増
	路上工事時間		381 時間/km <sup>2</sup>	365 時間/km <sup>2</sup>	333 時間/km <sup>2</sup>	326 時間/km <sup>2</sup>	305 時間/km <sup>2</sup>
安全・安心な生活の確保と災害に強い県土づくり ～安全で安心な暮らしを実現する道づくり～	道路交通における死傷事故率		69.3 件/億台キ口	67.9 件/億台キ口	72.9 件/億台キ口	66.5 件/億台キ口	62.4 件/億台キ口
	事前通行規制実施に伴う孤立人口		2,600 人	2,100 人	2,600 人	2,100 人	1,900 人
沖縄特有の豊かな自然環境の保全・創出 ～観光を支援し、環境を保全・創造する道づくり～	夜間騒音要請限度達成率		91%	92%	92%	92%	94%

- 1 渋滞モニタリング区間とは、毎年度継続して調査している区間で、その延長は、106.5kmであり、県道以上の総延長の約8%を占める。
- 2 集計方法を変更したため、H15年度業績計画書の数値とは異なる。

沖縄ブロックの 社会資本整備重点計画	アウトカム指標名	平成14年度 実績値	平成15年度		平成16年度 目標値	平成19年度 目標値
			目標値	実績値		
特性を活かした安らぎ と活力ある地域づくり ～ゆとりある個性豊か な地域を創出する道づ くり～	1日当たりの平均利用者 数が5,000人以上の旅客施 設の周辺等の主な道路の バリアフリー化の割合	21%	30%	27%	40%	76%
	無電柱化整備率 <sup>3</sup> (うち電柱が撤去され 無電柱化された割合 <sup>4</sup> ) 全計画延長 約83kmに 対する整備割合 【H16年度新規指標】	37% (31%)	-	42% (31%)	60%	77%
～道路行政の転換～	道路利用者満足度 <sup>5</sup>	2.7	2.7	2.6	2.8	3.0
	ホームページアクセス数	5.2万 アクセス/ 年	25.6万 アクセス/ 年	18.2万 アクセス/ 年	45.9万 アクセス/ 年	107万 アクセス/ 年
	ボランティア・サポート・ プログラムの参加団体数	17 団体	毎年増加	25 団体	毎年増加	毎年増加

- 3 沖縄県の無電柱化計画において無電柱化の対象として位置づけられている県道以上の路線のうち、当該年度までに電線類地中化のための管路の埋設が完了した区間延長の割合。
- 4 電柱が撤去され無電柱化された割合とは、地上に設置されていた電気・電話線等が管路内に埋設され、電柱が撤去され、道路上の電柱が無くなった割合。
- 5 道路利用者満足度は5点満点。

## 各指標の内容

沖縄ブロックの 社会資本整備 重点計画	アウトカム指標名	アウトカム数値変動要因 (プラス効果)	アウトカム数値変動要因 (マイナス効果)
自立型経済の構築と持 続的発展を支える基盤 づくり ～連携を強化し、交流を 促進する道づくり～	<p>日常生活の中心となる都市まで、30分以内で安全かつ安定的に走行できる人の割合</p> <p><b>《指標の意味》</b> 日常生活の中心となる都市（那覇市、沖縄市、名護市）まで改良（車道幅員5.5m以上）された道路を利用し、30分以内に安全かつ快適に移動できる人の割合を表す。</p>	<p><b>新規道路（改良済み）の供用</b> 『新規事業区間の供用により、改良済み延長が伸び、30分での到達人口が増加。』 平成15年度供用事業により、改良済み延長が約9.2km増加。</p> <p><b>既存区間の改良</b> 『すでに30分での到達が可能なエリアであっても未改良区間が残っている場合は安定的な到達が不可能として判断しているため、到達エリア内における改良箇所が増加したことにより、安定到達人口が概ね2,600人増加。』</p>	<p><b>事業の繰越し</b> 『供用を予定していた事業が実施されなかった地域では、状況の改善なし。』</p>
	<p>規格の高い道路を使う割合</p> <p><b>《指標の意味》</b> 自動車専用道路を利用する交通の割合を表す指標であり、具体的には、全道路の走行台キロ<sup>1</sup>に占める自動車専用道路の走行台キロの割合を表す。</p>	<p><b>自専道<sup>2</sup>延長の増加</b> 『自専道の新規供用により自専道延長が増加。』 那覇空港自動車道（南風原南IC～豊見城IC）の暫定供用により、自専道の延長が3.9km増加。</p> <p><b>自専道交通量の増加（並行区間の交通量減少）</b> 『既存区間の延伸により、自専道の利便性が向上し、自専道利用交通量が増加（並行一般道区間の交通量減少）。』 料金低減策の継続、及び那覇空港からIC間の連結性強化により、利便性が向上したことで、那覇空港自動車道の交通量が西原JCT～南風原北IC間で約3,700台/日（約1.3倍）、南風原北IC～南風原南IC間で約4,300台/日（約1.6倍）がそれぞれ増加。一方、並行する一般国道329号那覇東バイパスの交通量は約1,500台/日減少。</p>	<p><b>一般道の総走行台キロの増加</b> 『自専道の交通量は増加しているが、一般道でも総走行台キロが増加しているため、自専道の交通量増加分の効果が減少。』 沖縄自動車道、那覇空港自動車道など自専道の走行台キロは約10%増加しているが、一般道における総走行台キロも約1%増加しているため、自専道の走行台キロ増加による分担率の増加効果が薄れている。</p>

1 区間ごとの交通量と道路延長を掛け合わせた値であり、道路交通の量を表す。

2 自専道とは自動車専用道路の略称であり、国土ネットワークを形成し、自動車のみの交通の用に供する道路。本県では沖縄自動車道（那覇IC～許田IC）・那覇空港自動車道（西原JCT～豊見城IC）を示す。

<p>沖縄ブロックの 社会資本整備 重点計画</p>	<p>アウトカム指標名</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (プラス効果)</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (マイナス効果)</p>
<p>自立型経済の構築と持 続的発展を支える基盤 づくり ～都市部の交通渋滞を 緩和する道づくり～</p>	<p>道路渋滞による損失時 間</p> <p>《指標の意味》 県道以上の道路にお ける渋滞が無い場合の 所要時間と実際の所要 時間の差を表す。</p>	<p><u>新規道路の供用による並行区間の速 度向上、道路改良による速度向上</u> 『バイパス等の新規道路の供用や、現道 区間の改良により、走行速度が向上。』 那覇空港自動車道（南風原南IC～豊見 城IC）、一般国道58号読谷道路、一般 国道329号石川バイパスの供用によ り、並行する現道部分の走行速度が向 上。</p>	<p><u>新規道路にアクセスする道路におい て、渋滞損失時間が増加</u> 『バイパス等の新規道路の供用によ り、供用区間へアクセスする道路にお いて渋滞損失が増加。』 那覇空港自動車道（南風原南IC～豊見 城IC）、一般国道58号読谷道路、一般 国道329号石川バイパスの供用によ り、供用区間へアクセスする道路にお いて渋滞損失時間が増加。</p>
	<p>E T C利用率</p> <p>《指標の意味》 E T Cが導入されて いる料金所において、 E T Cを使用して通行 した車両の割合を表 す。</p>	<p><u>E T Cゲートの増設</u> 『E T Cゲートの整備による利便性の 向上により、E T C利用台数が増加。』 沖縄自動車道全ICへのE T Cゲート 設置導入後、E T C使用登録車両数が 増加（全料金所にて供用を開始した翌 月（H15.12）のE T Cセットアップ数 が前月比の3倍となった）。</p>	<p><u>E T C車載器のメリットの程度</u> 『利用者ニーズ。』 E T C車載器を設置しない一番の理 由は、「車載器の金額の高さ」となっ ている（JHアンケート調査結果よ り）。 《設置しない理由》 1．車載器の金額の高さ（約41%） 2．手続きの面倒さ（約26%） 3．割引率の低さ（約21%） <u>E T C登録台数の伸びの低さ</u> 『他地域との比較においては伸びが低 いといったような、そもそもの普及率 の低さ。』 九州の他県と比較して、伸び率は依然 として低い。 <u>高速道路の交通量の増加がE T C利 用台数の増加を上回る</u> 『E T C利用台数は毎年増加している ものの、それ以上に高速道路の利用台 数が増加したため、E T C利用率は微 増にとどまった。』</p>
	<p>路上工事時間</p> <p>《指標の意味》 道路上において行わ れる工事（路上工事） に伴う年間の交通規制 時間を道路1kmあたりに 換算した数値を表 す。</p>	<p><u>継続事業の終了</u> 『過年度からの継続事業の終了による 路上工事時間の短縮。』 モノレールの開業により、関連工事 が約39時間/km・年解消。 一般国道329号で上・下水道工事が完 了。</p>	<p><u>工事規制の増加</u> 『道路工事（直轄）の増加による工事 規制時間の増加。』 管理系単年工事で約24時間/km・年 増加。</p>

<p>沖縄ブロックの 社会資本整備 重点計画</p>	<p>アウトカム指標名</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (プラス効果)</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (マイナス効果)</p>
<p>安全・安心な生活の確保 と災害に強い県土づく り ～安全で安心な暮らし を実現する道づくり～</p>	<p>道路交通における死傷 事故率</p> <p>《指標の意味》 自動車の走行台キ口 当たりの死傷事故件数 を表す。</p>	<p><u>交通安全事業（交差点改良等）の実 施</u> 『交差点改良等の実施により、交差点で のスムーズな右折が可能になるなど、死 傷事故の危険性が低減。』</p> <p><u>改築事業（バイパス整備等）の実施</u> 『バイパスの整備等の実施により、市街 地内の狭い道路から規格の高い（走りや すい）道路へと交通がシフト。』</p>	<p><u>全体の死傷事故件数の増加</u> 『事業を実施した区間で事故件数が減 少しても、それ以外の区間では事故が 増加しているため、全体としては死傷 事故件数が約370件増加した。』</p> <p><u>道路利用者のモラル</u> 『人対車両の事故のうち、約5割が横断 歩道以外の箇所における横断中の事故 になっているなど、道路利用者のモラ ルに起因する事故も少なくないと考え られる。』</p>
	<p>事前通行規制実施に伴 う孤立人口</p> <p>《指標の意味》 異常気象時の大雨お よび越波等により、他 地域への移動ルートが 確保されずに孤立する 人口を表す。</p>	<p><u>対策事業の実施</u> 『対策事業を実施することが、事前通行 規制区間の基準緩和・解除の必要条件。』 一般国道58号宇良拡幅事業が、実質的 に完了。</p>	<p><u>通行規制基準緩和・解除の手続きに 時間を要する</u> 『通行規制基準の緩和・解除の手続き に当たっては、対策工事が完了してい ること、学識経験者等による判断を仰 ぐこと、実際に規制基準を上回る雨量 を経験して無災害であること等、の基 準がある。』</p>
<p>沖縄特有の豊かな自然 環境の保全・創出 ～観光を支援し、環境を 保全・創造する道づくり ～</p>	<p>夜間騒音要請限度達成 率</p> <p>《指標の意味》 住居が連担している 幹線道路において、沿 道の夜間騒音が要請限 度を達成している道路 延長の割合を表す。</p>	<p><u>舗装改良事業による騒音減少</u> 『排水性舗装等の舗装改良事業の実施 による騒音減少。』 一般国道58号宜野湾市伊佐地区では 排水性舗装改良により騒音レベルが 低下。</p>	<p><u>排水性舗装の機能低下</u> 『排水性舗装の老朽化による機能の低 下。』</p> <p><u>交通量の増加</u> 『交通量の増加に伴う騒音レベルの増 加。』</p>

<p>沖縄ブロックの 社会資本整備 重点計画</p>	<p>アウトカム指標名</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (プラス効果)</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (マイナス効果)</p>
<p>特性を活かした安らぎと活力ある地域づくり～ゆとりある個性豊かな地域を創出する道づくり～</p> <p>平成16年度に新規指標として「無電柱化整備率」を設定する。</p>	<p>1日当たりの平均利用者数が5,000人以上の旅客施設の周辺等の主な道路のバリアフリー化の割合</p> <p><b>《指標の意味》</b> 主要なモノレール4駅（県庁前、美栄橋、古島、首里）周辺の特定経路のうち、バリアフリー化された道路の割合を表す。</p>	<p><b>バリアフリー関連事業の実施</b> 『バリアフリー関連事業を実施することにより、バリアフリー化の割合も増加。』 主要なモノレール4駅（県庁前、美栄橋、古島、首里）周辺でバリアフリー化関連事業を実施したことにより、バリアフリー化の割合が約6%（400m）増加。</p>	<p><b>関係機関との調整</b> 『並行して実施している電線共同溝の整備に伴う既設埋設物の移設において占有者との調整やその移設に時間を要するため事業の完成が遅延。』</p>
<p>～道路行政の転換～</p>	<p>道路利用者満足度</p> <p><b>《指標の意味》</b> 国土交通省がインターネットを用いて実施した、道路全般に対する満足度調査の沖縄県結果を表す。</p>	<p><b>道路利用者満足度の向上</b> 『「大雨、大雪などの異常気象時のあなたの家のまわりの道路状況について」、「よく使う道路の歩道の歩きやすさや自転車での走りやすさについて」等の道路利用者満足度が向上。』</p>	<p><b>道路利用者満足度の低下</b> 『「よく使う一般国道、県道などの幹線道路について」、「最近、道路行政は変わってきていると思うかどうかについて」等の道路利用者満足度が低下。』</p>
	<p>ホームページアクセス数</p> <p><b>《指標の意味》</b> 沖縄総合事務局が運用している「ホームページ」及び「携帯電話」のアクセス数の合計を表す。</p>	<p><b>情報提供手段の充実による情報入手利便性の向上</b> 『情報入手の利便性を高めることにより、提供情報の有用性を高め、結果としてアクセス数が増加。』 道路ポータルサイトの開設、携帯電話の各キャリアにおける公式サイトへの登録・開設。 <b>インターネット利用人口の増加</b> 『インターネット利用人口の増加を背景としたアクセス数の増加。』 沖縄県のインターネット利用人口は増加傾向。 <b>情報提供内容の充実による利用価値の向上</b> 『情報内容の充実により、提供情報の有用性を高め、結果としてアクセス数が増加。』 携帯サイトでは、全ての情報内容についてアクセス数が増加。特に平成15年度から追加された「観光経路情報」へのアクセス数が最も多い。</p>	<p>『提供内容の更新頻度によってはリピーターの減少が考えられるが、現状ではその数量が把握できておらず、今後ニーズ把握等に努めるが、現時点で主たる当該要因は特にない。』</p>

<p>沖縄ブロックの 社会資本整備 重点計画</p>	<p>アウトカム指標名</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (プラス効果)</p>	<p>アウトカム数値変動要因 (マイナス効果)</p>
	<p>ボランティア・サポート・プログラムの参加団体数</p> <p><b>《指標の意味》</b> 「ボランティア・サポート・プログラム」の制度を活用し、道路の美化清掃を行っている団体数を表す。</p>	<p><u>ボランティア活動に対する認知向上</u> 『PR活動等を通じて、ボランティア活動に対する認知度が向上し、プログラムの参加団体数が増加。』</p> <p>PRや表彰を通じて認知度が向上し、参加団体数が8団体(17団体 25団体)増加。</p>	<p>現時点で特になし。</p>

指標毎の主な関連事業・施策

沖縄ブロックの 社会資本整備 重点計画	アウトカム指標名	事業・施策名	事業 種別	事業 箇所	供用状況
自立型経済の構築と 持続的発展を支える 基盤づくり ～連携を強化し、交 流を促進する道づく り～	日常生活の中心と なる都市まで、30 分以内で安全かつ 安定的に走行でき る人の割合	一般国道329号 石川バイパス	改築	石川市	H15年度全線2車供用 (H16年度全線4車供用)
		一般国道58号 読谷道路	改築	読谷村	H15年度部分暫定供用 (H18年度部分暫定供用)
	規格の高い道路を 使う割合	那覇空港自動車道 (豊見城東道路)	改築	南風原町・ 豊見城市	H15年度部分暫定供用 (H19年度全線暫定供用)
		通行料金 割引の継続	ソフト 施策	沖縄 自動車道	継続中
自立型経済の構築と 持続的発展を支える 基盤づくり ～都市部の交通渋滞 を緩和する道づくり	道路渋滞による損 失時間	那覇空港自動車道 (豊見城東道路)	改築	南風原町、 豊見城市	H15年度部分暫定供用 (H19年度全線暫定供用)
		一般国道58号 読谷道路	改築	読谷村	H15年度部分暫定供用 (H18年度部分暫定供用)
		一般国道329号 石川バイパス	改築	石川市	H15年度全線2車供用 (H16年度全線4車供用)
		那覇IC～首里駅 右折専用レーン	改築	那覇市	H15年度供用 (右折化は完了したが、専 用レーンは未設置)
		バス停 環境整備	管理	10ヶ所	H15年度供用
		高速バス・ モノレールの 社会実験	ソフト 施策	沖縄市 ～那覇市	H15年度実施
		バス位置 情報提供	ソフト 施策		実施中
		モノレール		那覇市	H15年度開業
	E T C利用率	E T Cレーンの 設置	E T C路 側 機器整備	北中城IC 沖縄北IC 屋嘉IC 金武IC	H15年度供用 (混在レーン入口、出口)
	路上工事時間	占用工事等連絡協 議会の開催	-	本島全域	実施中



沖縄ブロックの 社会資本整備 重点計画	アウトカム指標名	事業・施策名	事業 種別	事業 箇所	供用状況
安全・安心な生活の 確保と災害に強い県 土づくり ～安全で安心な暮ら しを実現する道づく り～	道路交通における 死傷事故率	鏡水 交差点改良	交安1種	那覇市	H15年度事業完了
		真玉橋 交差点改良	交安1種	那覇市	H15年度事業継続
		浜川 交差点改良	交安1種	北谷町	H15年度事業継続
	事前通行規制実施 に伴う孤立人口	一般国道58号 宇良拡幅	改築 (防災)	国頭村	H15年度暫定供用 (H16年度全線供用)
沖縄特有の豊かな自然 環境の保全・創出 ～観光を支援し、環 境を保全・創造する 道づくり～	夜間騒音要請限度 達成率	一般国道58号 宜野湾市伊佐地区	補修 (修繕)	宜野湾市	H15年度完成供用
		一般国道330号 那覇市安里～ 古波蔵地区	補修 (修繕)	那覇市	H15年度事業継続
特性を活かした安ら ぎと活力ある地域づ くり ～ゆとりある個性豊 かな地域を創出する 道づくり～	1日当たりの平均 利用者が5,000 人以上の旅客施設 の周辺等の主な道 路のバリアフリー 化の割合	県道39号線	補助 (街路)	那覇市	H15年度部分供用
		主要地方道 那覇北中城線	補助 (街路)	那覇市	H15年度部分供用
～道路行政の転換～	道路利用者 満足度	-	道路 事業 全般	県内 全域	グループインタビュー 実施
	ホームページ アクセス数	沖縄ITS ショーケース システムの改変		システム 設置箇所	H15年度完了(道路ポータル サイト、道路情報提供シ ステムの一部)
		携帯電話公式 サイトの開設		-	H15年度完了
		ホームページの 更新		-	継続中 (更新頻度を高め、内容の 充実を図る)
		利用者ニーズ 調査の実施		-	検討中
		コンテンツ毎の アクセス数の分析 によるニーズ把握		-	検討中
		リンク先の拡大		-	検討中
	ボランティア・サ ポート・プログラ ムの参加団体数	ボランティア・サポ ート・プログラム	管理	-	実施中